

「ヤーニンジュの変容と危機の家族：戦争体験と記憶伝承」

2020/1/11 (於)東京外語大学 A・A 研公開シンポジウム 山内健治(明治大学)yamauchi@meiji.ac.jp

はじめに：沖縄県読谷村の事例から社会的ハザード（戦争・基地化・強制移転）を家族がどのように受容してきたかその後のプロセスを遡求し「危機の家族」と克服について考えたい。

1 「家族概念」の限界に提示されてきた<ヤーニンジュ>とは何か。

※沖縄方言辞典＝「家族員」、沖縄文化史辞典辞＝「家人衆」

沖縄民俗辞典「ヤー（家）の論理に即して家族を表す言葉」

●一文化人類学の視点から一

田中真砂子（1982・1976）がサニ・血の論理で分析したフォークタームであり、渡邊欣雄が既存の「家族概念」の限界性を示唆したフォークターム。（『補論：「家族」概念の限界—沖縄調査ノートより』（渡邊欣雄；1982））

※婚外子を含むヤーニンジュは、「法的家族」「社会的家族」「心理的家族」が一致しないことから既存の家族類型・<家>概念批判であった。資料①参照

（山内健治；2007）→集団・関係・認識として語られる非嫡出子を内包するヤーニンジュの可変性・許容性・状況対応性はシマの論理と近似する。フィールドの事例を通じて<ヤーニンジュ>の基本的構造の理念には現在も生物学的（男系）親子関係の維持とその関係者の包摂を認める。資料（資料②・③）参照。

※婚外子＝ダキヌミングァー（竹藪の子）・ヤグサミングァー、グンボー・アッシメー

2 今（現在）沖縄の「危機の家族」として台頭するキーワード

1) 離婚率（2・77）・低所得（県民一人あたりの県民所得：2.183千円）、転職率

（7,2%）早婚・若年離婚・シングルマザー他。※中川知春 2004「沖縄の離婚率と家族制度」他。←→『沖縄のヤンキーと地元』（2019）打越正行に描かれる現在の沖縄の家族のリスク？資料④参照

2) 老後の扶養の問題＝「ロンリー&ロスト/ゼネレーション」→1972年（祖国復帰後）代以降、老人ホーム等の施設に入った世代の苦悩（現在90歳代）&その親を送った世代の価値観の変化

3 ヤーニンジュの中の戦争伝承

1) 一般的には、戦争犠牲者の話は、家族に日常会話内では避けられる傾向がある。「沖縄戦の体験者は戦争や犠牲者については、あまり語らない」

※慰霊の日・旧盆の参集の線香・香炉・位牌の前で語られる。

●個人名で刻まれる記憶伝承→慰霊碑・平和の礎他＝公共的な戦争の記憶伝承

←→ヤーニンジュの物故者（個人名）で刻まれるトートーメ（位牌祭祀）の記憶伝承＝私的・家族内の戦争の記憶伝承（慰霊の日・七夕・墓掃除・ウムケー（盆）・命日・敬老会他）

2) 位牌の禁忌 (イナグガンスの忌避)・夭死者の位牌・墓の禁忌

※女元祖を避けるためヤーニンジュ内では、男が死ぬまで女性の位牌は祀らない。→戦争犠牲者の幼少・女子はいつ祀られるのか (当時0歳から6歳=戦後75年=親が80~90歳に達する世代の位牌慣行の継承)。資料⑤・⑥・⑦参照

①死後60~70年経って位牌棚に祀られる死者達=旧盆・慰霊の日他に集まるヤーニンジュの中の伝承はどうなっているのか?

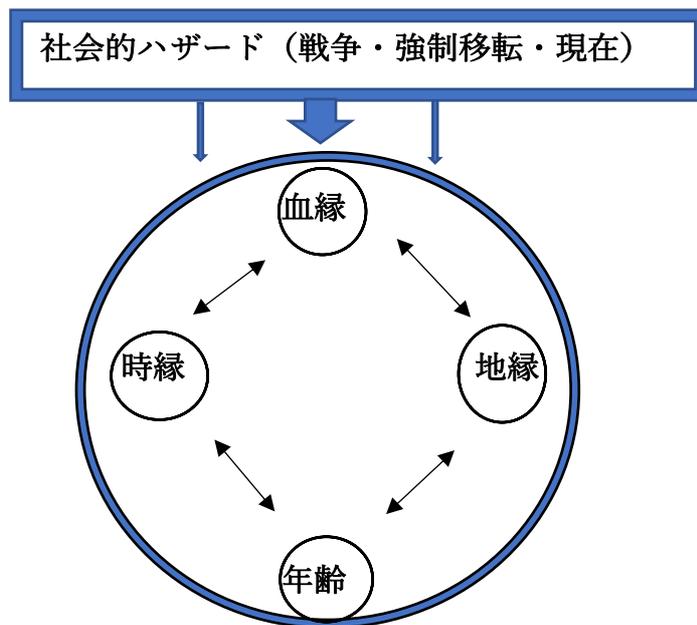
②集団自決 (強制集団死) 等、身内の幼少死・異常死は?

結論と課題

・トートーメ (位牌祭祀) 慣行のジレンマを超えて家族内での戦争伝承の肯定的評価

・「鏡の中の沖縄」=沖縄におけるヤーニンジュは「危機の家族」に対する本質的な危機を示唆しながらその克服のプロセスを提示する。

※補足キーワード「時縁」=福井勝義 (2000)「同じ時を共有することから生成する集団原理」「何かイベントをやったとか、ある種の利害得失も含めた経験集団」(地縁・血縁とは別に新たに形成される人間関係) →移動・接触・同利害・近隣・・・?



参考文献

打越正行：2019『ヤンキーと地元』筑摩書房

笠原政治：1989「沖縄の祖先祭祀—祀る者と祀られる者」『祖先祭祀—環中国海の民俗と文化3』渡邊欣雄編 凱風社

田中真砂子：1976「沖縄の親族関係語彙」『民族学研究』41—3 日本民族学会：1982[出自と親族]『現代の文化人類学—親族の社会人類学』渡邊欣雄編至文堂

武井基晃：2018『沖縄の戦後復興から高度経済成長の民俗学的考察—軍に接収されたシマ、戦災後の墓の再建を事例に—』「国立歴史民俗博物館報告書」第207集

中川知春：2004「沖縄の離婚率と家族制度」『沖縄の過去・現在・未来：2004年度地理学野外実習報告書』山崎孝史編 大阪市立大学文学研究科

福井勝義編：2000『近所づきあの風景—つながりを再考する』講座人間と環境8 昭和堂

村上興国・西村明編：2013『慰霊の系譜—死者を記憶する共同体』 森話社

山内健治：2003「戦世を超えるエスノグラフィー（楚辺編）—米軍幼稚基地接収による強制移転村の住民自治と文化変容—」『政経論争』72巻1号 明治大学政治経済所：2004「沖縄における戦後の家族変容とシマの論理—基地化・強制移転村・シマ再生の中で—」『政経論争』72巻2・3号 明治大学政治経済研究所：2019『基地と聖地の沖縄史—フェンスの中で祈る人々—』吉川弘文館

渡邊欣雄 1982「『補論：「家族」概念の限界—沖縄調査ノートより』『民俗知識論の課題』 凱風社

吉田佳代：2012『婚姻女性たちの相互行為からみる現代沖縄の祖先祭祀の維持と変容—伝統と近代を超克する新しい祖先祭祀の担い手—』首都大学東京大学院博士学位論文

—辞典関係—

『沖縄文化史辞典』1972：琉球政府文化財保護委員会編 東京堂出版

『沖縄語辞典』1976：国立国語研究所 大蔵省印刷局

『沖縄民俗辞典』2008：渡邊欣雄他編 吉川弘文館

WEB 参考

沖縄県医務福祉課(2005):「平成14年度衛生統計年報(人口動態編:総覧)」
http://www.pref.okinawa.jp/imufukushi/toukei/vs/vs2002_3.html , 沖縄県企画開発

統計課(2005):「平成14年就業構造基本調査結果(沖縄県分)の概要(要約)」.
http://www.pref.okinawa.jp/toukeika/ess/y/ess_14_youyaku/html

沖縄県総務部知事公室男女共同参画室(2005):「『平成13年度沖縄県男女共同参画白書』の概要」

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/contview.jsp?cateid=16&id=2317&page=1>

厚生労働省(1997):「平成9年度人口動態社会経済面の概況—離婚家庭の子とも—」

<http://www1.mhlw.go.jp/toukei/s-keizai/kekka.html> 厚生労働省